

九州大学平成29年7月九州北部豪雨災害 調査・復旧・復興支援団 2017.7.25報告

九州大学大学院工学研究院

附属アジア防災研究センター

三谷 泰浩 (mitani@doc.kyushu-u.ac.jp)



九州大学

背景

- ✓ 2017年7月5日から発生した豪雨により、九州北部地方に降り注いだ豪雨により甚大な被害が発生するとともに多くの人命が失われる大災害となった。



- ✓ これを受けて九州大学では、工学研究院附属アジア防災研究センターの三谷泰浩教授をリーダーとしたアジア防災研究センター、工学研究院、農学研究院、決断科学センター、医学研究院、歯学研究院、芸術工学研究院、人間環境学研究院、基幹教育院などの教員からなる「九州大学 平成29年7月九州北部豪雨災害調査・復旧・復興支援団」結成にむけた準備会を7月10日に開催した。

設立趣旨

- ✓ **東日本大震災，2016年熊本地震を経て，日本の主たる大学関係者は学の立場から調査・支援を行ってきたが，大学が果たす役割としてその後の復興に対して地域に根ざした観点で最後まで対応・支援できなかった。**
- ✓ **今回の災害に対して，日本の，そして九州の総合大学である九州大学としては，大学の英知を結集して災害の復旧から復興に渡る長いスパンの中で果たすべき役割を総合的に捉えて，地域とともに，将来起こりうる災害に対して対処する方法を学の立場から提案していくこととする。**

構成メンバー

工学研究院教員	20名
農学研究院教員	11名
基幹教育院	1名
医学研究院	1名
歯学研究院	1名
芸術工学研究院	4名
人間環境学研究院	2名
決断科学センター	6名
九州大学病院	1名

合計 47名 (2017.7.24時点)

【特徴】

九州大学の英知を結集した
分野横断的組織の構成

活動内容(1)

- 被災地への人的派遣(災害ボランティアを含む)
学生ボランティアの派遣, 専門家の派遣, 避難所・仮設住宅での被災者支援, 被災者への心理的ケア
- 現地における被害調査
学会のような特定分野の専門家の調査ではなく, 大学ならではの分野横断的な専門家による合同調査
- 災害の原因究明, メカニズムの解明
九大としての総合力を活かした多方面からの検討

活動内容(2)

■ 自治体支援業務

教員の持つ**ネットワーク**を活用し、自治体業務へ専門家として**アドバイス**を行い、協力体制を構築する。

■ 復旧・復興計画へのアドバイス

地域の持続的な将来を見据えた地域および関係者(行政を含む)との**協働**による**復旧・復興計画**を提案する。
官学産民連携の仕組みづくり。

現地情報の提供について

九州地理空間情報ポータル

<https://geoportal.doc.kyushu-u.ac.jp/html/htdocs/>

■ 地理空間情報の集約・統合

→ 地図情報集約システム

■ 被害に関する情報の収集

→ G空間情報収集システム



大学としての組織連携

- アジア防災研究センターを九大としての窓口とする。

問い合わせ先: 三谷 泰浩 教授

mitani@doc.kyushu-u.ac.jp

TEL:092-802-3399

- 災害情報(被害, 復旧対応時)の収集・集約・共有をアジア防災研究センターが行うとともに交通整理を行う。

九州地理空間情報ポータル 平成29年7月九州北部豪雨サイト(一般公開)

https://geoportal.doc.kyushu-u.ac.jp/html/htdocs/?page_id=396

- 教員の各所属学会との連携を図る。
- 今後発生する将来の災害にも対応できるオール九大としての組織の構築

- 河川調査
- 砂防調査
- 災害廃棄物仮置場調査
- 森林調査
- 避難所支援
- 復興支援
- ボランティアセンター支援
- ★ 災害ボランティア

2017/7/25時点

